

問1 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

問2 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といいますか。

問3 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といいますか。

問4 「地産地消（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。

問5 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。

問6 魚を卵からかえした稚魚などを、いけすなどで大きくなるまで人工的に育てて出荷する漁業を何といいますか。

問7 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といいますか。

問8 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。

問9 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といいますか。

問10 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何といいますか。

問11 漁業資源を守るために、国や自治体が行っている「とれる魚の量や期間を制限する」取り組みのことを何といいますか。

問12 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といいますか。

問13 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何といいますか。

問14 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何といいますか。

問15 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何といいますか。

問16 生産者が育てた野菜や果物を、スーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、お客さんに直接売る場所を何といいますか。

問17 大都市の近くで、消費者の好みに合わせて新鮮な野菜をたくさん作り、トラックを使って素早く届ける農業を何といいますか。

問18 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何といいますか。

問19 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。

問20 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	<b>答え</b> 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問2	<b>答え</b> 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問3	<b>答え</b> 養殖漁業	海の中にいけすなどの施設を設けて、魚や海そを計画的に育てる方法を養殖漁業と呼びます。栽培漁業は、卵からかえした稚魚を育ててから海に放す漁業のことなので、施設で最後まで育てる養殖漁業とは区別しましょう。
問4	<b>答え</b> 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	地産地消は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問5	<b>答え</b> 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問6	<b>答え</b> 養殖業	卵からかえした稚魚などを、いけすなどを使って人工的に大きくなるまで育ててから出荷する漁業を「養殖業」といいます。
問7	<b>答え</b> 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問8	<b>答え</b> 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問9	<b>答え</b> 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。
問10	<b>答え</b> 畜産	牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といいます。
問11	<b>答え</b> 漁獲規制	将来もずっと魚をとることができるように、とりすぎを防ぐためのルールを設けることを漁獲規制といいます。単に魚をとることを禁止するのではなく、量や期間を計画的に管理することで、魚の数が減るのを助けながら、安定した漁業ができるようにしています。
問12	<b>答え</b> 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。
問13	<b>答え</b> 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問14	<b>答え</b> 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問15	<b>答え</b> 伐採	長い年月をかけて育てた木を、木材として利用するために切る作業のことを伐採といいます。植林は苗木を植えること、枝打ちは節のないきれいな木にするために枝を切り落とすこと、間伐は成長を助けるために木を間引くことを指します。
問16	<b>答え</b> 直売所	生産者が自分で育てた農産物を、卸売市場やスーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、消費者に直接売るところを「直売所」といいます。収穫したばかりの新鮮なものが手に入ることや、生産者の顔が見える安心感があることが大きな特徴です。
問17	<b>答え</b> 近郊農業	大都市の近くで行われるこの農業は、消費者に新鮮な野菜を届けることが大切です。そのため、トラック輸送などを利用して、大都市の人々が求める野菜を計画的に出荷する工夫がされています。
問18	<b>答え</b> 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問19	<b>答え</b> 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため	夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といいます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。

---

**問20 答え**

中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる

産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間にかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。

---

- 問1 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といますか。
- 問2 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問3 漁業資源を守るために、国や自治体が行っている「とれる魚の量や期間を制限する」取り組みのことを何といますか。
- 問4 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。
- 問5 大陸だなの近くでは、なぜよい漁場ができるのですか。
- 問6 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多く、よい漁場となっている浅い海底のことを何といますか。
- 問7 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といますか。
- 問8 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といますか。
- 問9 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何といますか。
- 問10 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。
- 問11 大都市の近くで、消費者の好みに合わせて新鮮な野菜をたくさん作り、トラックを使って素早く届ける農業を何といますか。
- 問12 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問13 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といますか。
- 問14 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。
- 問15 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何と言いますか。
- 問16 「産地直送（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。
- 問17 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。
- 問18 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何といますか。
- 問19 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といますか。

## 答え合わせ・解説 No.2

問1	<b>答え</b> 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くすずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問2	<b>答え</b> 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまう。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問3	<b>答え</b> 漁獲規制	将来もずっと魚をとることができるように、とりすぎを防ぐためのルールを設けることを漁獲規制といいます。単に魚をとることを禁止するのではなく、量や期間を計画的に管理することで、魚の数が増えるのを助けながら、安定した漁業ができるようにしています。
問4	<b>答え</b> 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問5	<b>答え</b> 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多いため。	大陸だなは浅い海底で、暖流や寒流が近くを流れることで海そうやプランクトンが多くなり、魚が集まるよい漁場になります。
問6	<b>答え</b> 大陸だな	暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多くてよい漁場となっている浅い海底を「大陸だな」といいます。
問7	<b>答え</b> 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問8	<b>答え</b> 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるといった違いがあります。
問9	<b>答え</b> 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問10	<b>答え</b> 買い手と値段を決めること	せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。
問11	<b>答え</b> 近郊農業	大都市の近くで行われるこの農業は、消費者に新鮮な野菜を届けることが大切です。そのため、トラック輸送などを利用して、大都市の人々が求める野菜を計画的に出荷する工夫がされています。
問12	<b>答え</b> 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問13	<b>答え</b> 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問14	<b>答え</b> 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる	産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間でかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。
問15	<b>答え</b> 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問16	<b>答え</b> 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	地産地消は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問17	<b>答え</b> 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため	夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といいます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。
問18	<b>答え</b> 伐採	長い年月をかけて育てた木を、木材として利用するために切る作業のことを伐採といいます。植林は苗木を植えること、枝打ちは節のないきれいな木にするために枝を切り落とすこと、間伐は成長を助けるために木を間引くことを指します。

---

**問19** **答え**  
促成栽培

あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。

---

- 問1 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何とといいますか。
- 問2 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何とといいますか。
- 問3 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何とといいますか。
- 問4 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何とといいますか。
- 問5 大陸だなの近くでは、なぜよい漁場ができるのですか。
- 問6 夏の涼しい気候などを利用して、野菜の育つ時期を普通よりも「遅らせて」栽培する方法を何とといいますか。
- 問7 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何とといいますか。
- 問8 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何とといいますか。
- 問9 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多く、よい漁場となっている浅い海底のことを何とといいますか。
- 問10 生産者が育てた野菜や果物を、スーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、お客さんに直接売る場所を何とといいますか。
- 問11 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。
- 問12 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何とといいますか。
- 問13 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何とといいますか。
- 問14 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。
- 問15 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。
- 問16 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。
- 問17 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問18 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。
- 問19 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問20 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。

## 答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 畜産	牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といいます。
問2	答え 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。
問3	答え 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問4	答え 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問5	答え 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多いため。	大陸だなは浅い海底で、暖流や寒流が近くを流れることで海そうやプランクトンが多くなり、魚が集まるよい漁場になります。
問6	答え 抑制栽培	抑制栽培は、標高の高い涼しい地域などを利用して、野菜の収穫時期を普通よりも遅らせる栽培方法です。他の地域で野菜がとれない時期に出荷できるため、高い値段で売ることができます。これに対して、ビニールハウスなどで温めて普通より早く育てる方法は「促成栽培」といいます。
問7	答え 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問8	答え 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問9	答え 大陸だな	暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多くてよい漁場となっている浅い海底を「大陸だな」といいます。
問10	答え 直売所	生産者が自分で育てた農産物を、卸売市場やスーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、消費者に直接売る場所を「直売所」といいます。収穫したばかりの新鮮なものが手に入ることや、生産者の顔が見える安心感があることが大きな特徴です。
問11	答え 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問12	答え 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問13	答え 促成栽培	あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。
問14	答え 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問15	答え 買い手と値段を決めること	せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。
問16	答え 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため	稚魚の時期は他の魚に食べられやすく、自然のままでは生き残る数が少ないことがあります。そのため、施設で安全に大きく育ててから放流することで、海や川にいる魚の数を効率よく増やし、安定して漁獲できるようにしています。
問17	答え 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまう。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問18	答え 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため	夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といいます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。
問19	答え 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。

---

**問20 答え**

すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから

平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。

---

- 問1 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問2 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といますか。
- 問3 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何といますか。
- 問4 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といますか。
- 問5 林業において、木と木の間隔を広げて日光が地面まで届くようにし、木の成長を助けるための作業を何といますか。
- 問6 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。
- 問7 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多く、よい漁場となっている浅い海底のことを何といますか。
- 問8 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。
- 問9 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。
- 問10 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。
- 問11 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といますか。
- 問12 「地産地消（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。
- 問13 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。
- 問14 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といますか。
- 問15 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何といますか。
- 問16 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。
- 問17 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といますか。
- 問18 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問19 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何といますか。

## 答え合わせ・解説 No.4

問1	<b>答え</b> 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問2	<b>答え</b> 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問3	<b>答え</b> 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問4	<b>答え</b> 養殖漁業	海の中にいけすなどの施設を設けて、魚や海そうを計画的に育てる方法を養殖漁業と呼びます。栽培漁業は、卵からかえした稚魚を育ててから海に放す漁業のことなので、施設で最後まで育てる養殖漁業とは区別しましょう。
問5	<b>答え</b> 間伐	森の木々が育つと、木どうしが混み合って日光が当たりにくくなります。そこで、あえて一部の木を切り倒して間隔を広げる「間伐」を行うことで、残った木に十分な日光と栄養がいきわたり、丈夫に育つようになります。
問6	<b>答え</b> 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる	産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間でかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。
問7	<b>答え</b> 大陸だな	暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多くてよい漁場となっている浅い海底を「大陸だな」といいます。
問8	<b>答え</b> すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから	平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。
問9	<b>答え</b> 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため	稚魚の時期は他の魚に食べられやすく、自然のままでは生き残る数が少ないことがあります。そのため、施設で安全に大きく育ててから放流することで、海や川にいる魚の数を効率よく増やし、安定して漁獲できるようにしています。
問10	<b>答え</b> 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる	地元で生産されたものを地元で消費することで、遠くまで運ぶ必要がなくなります。これにより、トラックなどが排出する二酸化炭素を減らせるため、地球環境を守ることにつながります。また、地域の農家が元気になり、地域の産業が活性化するという良さもあります。
問11	<b>答え</b> 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。
問12	<b>答え</b> 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	産地消費は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問13	<b>答え</b> 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問14	<b>答え</b> 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問15	<b>答え</b> 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問16	<b>答え</b> 買い手と値段を決めること	せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。
問17	<b>答え</b> 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といえます。
問18	<b>答え</b> 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまうので、将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問19	<b>答え</b> 畜産	牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といえます。

問1 魚を卵からかえした稚魚などを、いけすなどで大きくなるまで人工的に育てて出荷する漁業を何といますか。

問2 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

問3 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といますか。

問4 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といますか。

問5 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。

問6 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といますか。

問7 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といますか。

問8 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といますか。

問9 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何といますか。

問10 漁港でとれたばかりの魚が集められ、買い手が値段を決めるために「せり」を行う場所を何といますか。

問11 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。

問12 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といますか。

問13 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。

問14 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といますか。

問15 夏の涼しい気候などを利用して、野菜の育つ時期を普通よりも「遅らせて」栽培する方法を何といますか。

問16 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。

問17 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といますか。

問18 林業において、木と木の間隔を広げて日光が地面まで届くようにし、木の成長を助けるための作業を何といますか。

問19 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。

## 答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 養殖業	卵からかえした稚魚などを、いけすなどを使って人工的に大きくなるまで育ててから出荷する漁業を「養殖業」といいます。
問2	答え 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問3	答え 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問4	答え 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。
問5	答え 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる	地元で生産されたものを地元で消費することで、遠くまで運ぶ必要がなくなります。これにより、トラックなどが排出する二酸化炭素を減らせるため、地球環境を守ることにつながります。また、地域の農家が元気になり、地域の産業が活性化するという良さもあります。
問6	答え 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問7	答え 促成栽培	あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。
問8	答え 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問9	答え 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問10	答え 魚市場	漁港でとれた魚を全国の食卓へ届けるための大切な中継地点です。魚市場では、多くの買い手が集まって「せり」という方法で魚の値段を決めるため、漁業の流通にとって欠かせない場所となっています。
問11	答え すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから	平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。
問12	答え 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。
問13	答え 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問14	答え 養殖漁業	海の中にいけすなどの施設を設けて、魚や海そうを計画的に育てる方法を養殖漁業と呼びます。栽培漁業は、卵からかえした稚魚を育ててから海に放す漁業のことなので、施設で最後まで育てる養殖漁業とは区別しましょう。
問15	答え 抑制栽培	抑制栽培は、標高の高い涼しい地域などを利用して、野菜の収穫時期を普通よりも遅らせる栽培方法です。他の地域で野菜がとれない時期に出荷できるため、高い値段で売ることができます。これに対して、ビニールハウスなどで温めて普通より早く育てる方法は「促成栽培」といいます。
問16	答え 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまうので、将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問17	答え 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くすずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問18	答え 間伐	森の木々が育ってくると、木どうしが混み合って日光が当たりにくくなります。そこで、あえて一部の木を切り倒して間隔を広げる「間伐」を行うことで、残った木に十分な日光と栄養がいきわたり、丈夫に育つようになります。
問19	答え 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。